

「忘れないために」

皆さんは、以前、気仙沼の街並みを思い出
せますか。僕は、はつきりと思いつくことが
できません。今の景色を以前からあった景色
として錯覚してしまっているのです。
それに気付いたのは、小原木中学校での活
動からでした。
小原木中学校では、海拔表示プロジェクト
を行っていています。その場所が、海拔何Mなの
かを調べ、電柱など見えるところに、このよ
うな表示板を取り付けていきます。海拔を意
識し、どの高さまで逃げればよいのか、参考
にしてもらおうと考えたプロジェクトです。
調べてみると、小原木中学校は海拔七十M。
気仙沼高校は、四十・五M。市立病院は一三・
八M。エースポートは〇・八Mでした。僕が
住む只越地区の津波の最大値は二七・六M。
海拔五・二Mしかなかった僕の家は、もうあ
りません。

僕達はまず、この表示板を中学校のある館地区に取り付けました。この地区はほとんどが海拔二十M以上で、被害の少なかった場所です。次にそのとなりの大沢地区への取り付け。ここは、海と少し離れていても多くが海拔二M程度で、大きな被害のあった地区です。取り付け作業の中で、僕は、変わり果てたこの地区の姿を見ながら、言いようのない不思議な感覚に襲われていきました。それは、草が生い茂る、何もなくなつたこの景色を見て、全く違和感を感じなくなつていくのです。それどころか、今の景色にすっかり慣れてしまった自分がそこにいるのです。あたかもこの景色は、僕が生まれる前からずっとこうだつたんだと。いや、それは違う。こんな姿ではない。ここには僕の友達の家があつて、漁港から見える海はもう少し遠く低くて、コンビニはここにはなかった。かつて過ごしてきた風景が、僕の頭の中から薄れていってしまふ。取り付けをしながら、何が以前で、何が

今なのか。何が変わって、何が変わっていないのか。その後、何かに誘われるように、かつての自分の家があった場所に行って見ました。今残っているのはコンクリートの土台だけ。ここで生活の営みがあったなんてこれぼっちも感じられませんか。でも、この景色にも何の違和感を感じない自分がそこに立っていました。ここには、皆で笑った家があったはず。地域があつたはず。そして、笑顔のおじさんがいたりしなくていいのに、十年以上も暮らした環境を感覚を失いつつある自分がいたのです。僕を今まで育ててくれたこの温かな場所を、心の片隅から消しきってしまったのかと、自分自身がとても怖くなりました。人は忘れてしまうもの。慣れてしまうもの。悲しみの中にいつまでもいてはいけない。切り替えて前に進まなくてはいけない。辛いけれど、震災があつたことを、そこに町があつ

たことを、僕達は忘れず、しっかりと伝えてい
かなくてならないと思うのです
「忘れないために」その一つの手立てが、
海拔表示プロジェクト。身を守ることの大切
さを伝えながら、地域を回り、昔の景色、育
った環境、地域の温かさを、もう一度確認し、
そして伝える。
僕は、これから、ここにどんな人達が住
んでいたのか、どんな町があったのか、そし
て震災でどんな被害を受けたのかを後世に伝
えていきたいと思っています。それが、海と
一緒に生活していく僕たちの役目だと思っ
ているから……。